日南町第６回定例28年９月７日

日南町告示第33号

平成28年第６回日南町議会定例会を次のとおり招集する。

平成28年８月30日

日南町長　増　原　　聡

記

招集年月日　　平成28年９月７日

招集場所　日南町役場庁舎　議場

○開会日に応招した議員

足　羽　　覚君	惠比奈　礼　子君
古　都　勝　人君	山　本　芳　昭君
大　西　　保君	坪　倉　勝　幸君
近　藤　仁　志君	荒　木　　博君
久　代　安　敏君	福　田　　稔君
村　上　正　広君	

○応招しなかった議員

なし

平成28年　第６回（定例）日　南　町　議　会　会　議　録（第１日）

平成28年９月７日（水曜日）

議事日程（第１号）

平成28年９月７日　午前９時開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　一般質問

出席議員（11名）

１番　足　羽　　覚君	２番　惠比奈　礼　子君
４番　古　都　勝　人君	５番　山　本　芳　昭君
６番　大　西　　保君	７番　坪　倉　勝　幸君
８番　近　藤　仁　志君	９番　荒　木　　博君
10番　久　代　安　敏君	11番　福　田　　稔君
12番　村　上　正　広君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	岩　崎　昭　男君	書記	井　川　夏　実君

説明のため出席した者の職氏名

町長	増　原　　聡君	副町長	中　村　英　明君
教育長	丸　山　　悟君	総務課長	高　見　正　司君
企画課長	木　下　順　久君	教育次長	安　達　才　智君
住民課長	久　城　隆　敏君	病院事務部長	古　井　　聡君
農林課長	青　葉　誠　也君	福祉保健課長	梅　林　千　恵君
建設課長	財　原　　積君	会計管理者	花　倉　幸　江君

日南町第６回定例28年９月７日
保育園長 ―――― 田　辺　陽　子君　　病院事業管理者 ―― 中　曽　森　政君
地方創生専門監 ―― 山　中　慎　一君

午前９時２０分開会

○議長（村上　正広君）ただいまの出席は１１名であります。定足数に達していますので、平成２８年第６回日南町議会定例会を開会いたします。
　直ちに本日の会議を開きます。
　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。
　タブレットの報告ファイルをお開きください。地方自治法第１２１条の規定により、本定例会に出席を求めた者は、タブレット１ページの報告書のとおりであります。
　タブレット２ページ、本町の監査委員から、平成２８年８月１７日付をもって、地方自治法第２３５条の２の規定による例月出納検査の結果について報告がありました。２ページから８ページのとおり報告をいたします。
　タブレット９ページ、町長から、平成２７年度一般財団法人エナジーにちなんの決算報告書が、地方自治法第２４３条の３第２項の規定により提出がありました。９ページから２４ページのとおり報告をいたします。
　タブレット２５ページ、本町の教育長から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項の規定により、平成２７年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価結果について報告がありました。２５ページから８６ページのとおり報告をいたします。

―――――――――――――・――――・――――――――――――

　日程第１　会議録署名議員の指名
○議長（村上　正広君）日程第１、会議録署名議員の指名をいたします。
　会議録署名議員は、会議規則第１２５条の規定により、議長において、４番、古都勝人議員、５番、山本芳昭議員の２名を指名いたします。

―――――――――――――・――――・――――――――――――

　日程第２　会期の決定
○議長（村上　正広君）日程第２、会期の決定を議題といたします。
　今期定例会の会期は、さきに議会運営委員会に諮問し答申を得ていますが、その会期は本日９月７日から９月３０日までの２４日間であります。
　お諮りいたします。今期定例会の会期は、議会運営委員会の答申のとおり、本日９月７日から９月３０日までの２４日間とすることに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（村上　正広君）御異議なしと認めます。よって、会期は、本日から９月３０日までの２４日間に決定をいたしました。
　つきましては、今期定例会の運営については、格別の御協力をお願いをいたします。

―――――――――――――・――――・――――――――――――

○議長（村上　正広君）ここで執行部からの発言が求められていますので、これを許します。
　増原町長。
○町長（増原　　聡君）おはようございます。９月定例議会を招集いたしましたところ、議員各位には皆さんおそろいでお集まりいただきましてありがとうございます。先ほど議長の挨拶にもありましたように、いよいよ日南町も収穫の秋を迎えております。今議会は、ある意味では日南町の昨年度の収穫が一体どうであったかという決算議会であります。慎重な審議を賜り、そしてその決算の認定、また、そして次年度に生かせるように、慎重な決算特別委員会等の審議をお願いしたいと思うところであります。
　先ほどお話がありました、９月の上旬には台風１２号等が参りまして、非常に心配したわけでありますし、その後、日南町にも、済みません、台風１０号というものも非常に迷走した台風でありました。台風１２号は幸いにも温帯低気圧になりまして、余り被害はなかったわけでありますけども、台風１０号におきましては、今なお続く東北大震災の被害地である岩手県等を襲い、また北海道でも、現在、行方不明者がまだ出ておると、捜索があるという状況であります。
　振り返ってみますと、ことし、まだ終わっておりませんけども、日南町も含め、非常に災害の多い年でございました。御承知のとおり、１月２５日には、日南町での三吉での水害といいますか、雪害ということが発生いたしました。きょうの新聞にも出ておりますように、経産局のほうからは口頭注意処分ということで、上水槽に構造上の問題があったと

いうことが指摘されましたので、これを踏まえて、できれば今議会のうちには何らかの復旧予算等を出して、安心してお住まいをいただけるようなことを図りたいというふうに思うところであります。また、４月の１５日は、今なお余震が続いておりますけども、熊本県の大地震ということが発生いたしました。まだこれも余震が今でも続いておるということでありまして、非常に長引く余震におびえられているという毎日が続いておるというふうに思っております。先ほど申し上げました東北におきましても、まだ東日本大震災の爪跡が残る中で、いわゆる日本全国が満身創痍の状況であるというふうに思っております。

そういう中で、いつ何どき日南町でも災害が起きるかわかりません。本来でしたら９月の５日には西部の消防局と、それから航空隊が一緒になって、山林の事故を想定とした訓練を行う予定でありましたけども、９月の５日には台風１２号が接近するということで急遽取りやめになりましたけども、これも今月中にはもう一回やられるというふうに聞いておりますので、森林組合や消防団等の御協力もいただきたいというふうに思っておりますし、町におきましても総合防災訓練等、また、各まち協におかれましても防災マップの作成等をお願いしておるところであります。やはり今回の北海道でも防災担当が言っておられましたけども、予想外だったというふうなことがよく言われるわけであります。想定外とか予想外という言葉がよくあるわけでありますけども、それを想定して予想するというのがやはり行政なり防災の仕事だというふうに思っております。非常に今、自衛隊の方々、消防、警察、消防団の方々等も苦労されておりますけども、なお一層御協力をいただきながら、日南町が安心安全な町としてこれからも続くようにお願いをして、９月の議会の冒頭に対する挨拶とさせていただきます。今議会もよろしくお願いいたします。

―――――――――――――――――――――・――――・――――――――――――――――

日程第３　一般質問

〇議長（村上　正広君）日程第３、一般質問を行います。

一般質問は、通告順にこれを許しますが、議事進行の都合と通告制になっている関係上、関連質問については制限をいたしますので、御協力をお願いいたします。

タブレット、一般質問ファイル１ページをお開きください。

６番、大西保議員。

〇議員（６番　大西　　保君）おはようございます。

早速ですが、昨年８月に策定されたまち・ひと・しごと創生日南町人口ビジョン総合戦略について質問いたします。総合戦略の策定に当たっては、産官学金労言の関係者及び住民代表、日南中学校の生徒の皆さん、町職員、合計６２名の方が各分科会で１００件程度の提案があり、その中で３１項目の取り組む具体的内容が決まりました。２０４０年の将来人口を見据え、まずは５年間の事業実施、平成３２年度の目標数値を定められました。実施については、毎年、評価委員会における事業チェックを受けながら進めていくとなっております。去る８月１９日に、２７年度実績に対する総合戦略第三者評価委員会が開催されました。委員会は一般公開でしたので、傍聴させていただきました。

そこで質問いたします。１点目は、２７年度の達成値、自己判定を見て、町長はどのように感じられたのか。

また、特に課題と思われる具体的な内容の項目について、町長から何らかのコメント及び見直しを指示されたのか。

３点目、総合戦略第三者評価委員会の委員は何名なのか。

よろしくお願いいたします。

〇議長（村上　正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

〇町長（増原　　聡君）大西保議員の御質問にお答えいたします。

まず、平成２７年度の達成値、自己判定に対し、私がどう感じたかということでございますけども、今回の第三者の評価委員会の開催に当たり、個別事業について自己評価を行い、各事業一つ一つ確認させていただきましたが、正直なところ、事業実施の１年目の今の段階では一生懸命頑張ってるところもあるというふうに思っておりますけども、まだまだ頑張れていないところがあるというふうに思っております。日南町の総合戦略については、御承知のとおり４つの柱から成っておりまして、１つ目は、仕事をつくり安心して働けるまちづくり、２つ目は、日南町への移住定住を促進させる、３つ目は、結婚、子育ての希望を実現させる、４つ目は、安心して暮らせる地域づくりであります。これらの４つの柱は必ず実現させなければ、地方創生ということは成り立たないというふうに思っております。どれか一つできればそれで終了というものではありません。進んでいないもの、あるいはＫＰＩが達成できていないものについては問題点をはっきりとさせ、今後の事業

実施を進めていくべきであると感じております。
　先般の９月の朝礼におきましても、いわゆるやっつけ仕事といいますか、やったことにした仕事にしないようにしてほしいということと、やはり非常におくれている仕事が具体的にありますので、幾つかそういうものを例示させていただきまして、その職員を非難するということではなくて、こういうふうなやり方の仕事はしないようにというふうなことでの指示をしたところであります。
　２つ目に、特に課題と思われる具体的な内容の項目についてのことでございます。今言いましたようなことをいろいろ申したところでありますけども、とりわけ地方創生においては人口増加というものが最も重要なものと位置づけられておりまして、町としては特に今後力を注いでいく分野であるため、移住定住分野については特に意見を付したところであります。具体的には、ＫＰＩの目標値の是正と取り組み内容、それについての軌道修正であります。ＫＰＩの目標値の点においては、Ｕターン者数が５年間で３０人という、若干私どもから見るともともと低い設定がしてありましたので、策定の時点から問題はしておりました。今回はその数値を上げるように、目標値を上げるように指示をさせていただきました。いわゆる達成したからそれでは済みではなくて、達成したらそれよりもより高い目標を掲げて、それに向かっていくようなことを考えていただきたいと、ほしいというふうに思っております。
　また、取り組み内容につきましては、いま一度２７年度の移住者の傾向をきちんと数値化をしてそれを分析した上で、町としてどのような方々に来てもらいたいかという点をはっきりとさせ、政策に反映するように指示をしたところであります。いわゆる、こちらに来れば誰でもいいというわけではないというふうにやっぱり思っております。やはり地域の役に立ち、言葉として、地域になじんでいただき、そして地域で活躍していただける人間というのがやはり求められているわけでありますので、そういう方々にぜひとも住んできていただけるような誘導をしていきたいというふうに思っております。
　さらに、全般的な指示といたしましては、お互いの課できちんと連携をしながら進めるという点については、総括的な意見として指示をさせていただきました。今後、自立改革推進本部を中心に整理をしていきたいというふうに思っております。いわゆるいろいろな事業を行うわけでありますけども、自分とこの課で済ましてしまう、しかし、例えばそれが移住定住であれば、農林課の移住定住であっても、それは住民課にかかわったり企画課にかかわったり、お子さん連れであれば保育園や教育委員会にもかかわるわけでありますので、当然、福祉保健課もそうであります。一つの事業が単独であるということではありません。各課でちゃんと連携をとって、やっぱり総合的な対策をとるということが必要だというふうに思っております。日南町職員の目指している方向は、議会も含めて、今回の地方創生の目標で総括されるというふうに思っております。ですから、今、自分がやっている仕事がただ単に自分の仕事ではなくて、地方創生の中の一つの歯車なんだという意識を持って進んでやっていただきたいと。地方創生の仕事が、ともすると、どういいますか、余分な仕事というふうな捉え方をしていただくと非常によくないというふうなことを強く感じて伝えたところであります。
　総合戦略第三者評価委員会の委員の数は、産官学金労言の方々を交えた１４名の方々から構成されておりまして、皆さん積極的な出席をしていただいておるところであります。
　以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。
○議長（村上　正広君）再質問がありますか。
　６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）町長の答弁、ありがとうございました。課題点も、一番重要なところ、課の連携とか、それから人口について言われましたので、私もそう思っております。
　今回、本議会の後、午後から全員協議会で説明もあるということなので、３１項目の細かな点についてはここでは話しせず、せっかく町長がおられるとこなので、町長を中心にちょっと質問させていただきたいんですけども、昨年６２名の方が、ずっと４月、５月、６月と３カ月間、４回か５回やられて、あと町職員の方で最終まとめられてここに来たわけですけども、私はその内容はともかく、内容というか、進め方というんですか、一番、目標値を定めたときの目標の選定理由とか数値の理由というのがはっきりしとるかどうか。済みません、過去のことを言って申しわけないです。まずそこがどうなのか、なぜぶれたのかということで、やはりそこの一番大事なとこがどのような目標を立てて、選定理由はこうで、そこがはっきりしないと、最終的には、１年後ですね、特にこの１年後が大変気にしておりました。いつ評価委員会開けるのかなとずっと気にしておったら、この８

月１０何日にあったんですけども、その目標値を選定するときには、皆さんどのように論議されたのかお聞かせ願いたいです。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）私への質問ということでありますので、正直申しまして、余り私ども口出しは正直言ってしておりません。余りこれに対して数値の目標とかそれに口出しをすると、せっかく６０数名の方が何日もかけたものを町長の一言で変わるというのは余りよくないというふうに思っております。ただ、やはり客観的に見て、例えば先ほど、今回特にＡというふうな評価を、多分きょう午後の説明であるというふうに思っておりますけども、Ａという評価をしたものについては、例えばＩターン、Ｕターンの方々の数値というのは、少しやっぱりどちらかというとかた目だったのかなというふうには思っております。ただ、これは先ほど申しますように、黒田三郎という方の詩じゃありませんけども、「紙風船」という詩があるわけですけども、落ちてきたら今度はもっと高く打ち上げようというふうな、夢のようにというふうなことがあるわけですけども、やはりそういうふうな数値であるべきだというふうに思っております。そこで満足するのではなくて、それを達成したらより高い目標へ持っていくという、やはり積み重ねが必要だというふうに思っております。いつまでも遠いところの目標で達成できないという、どういいますか、ジレンマを持つよりも、ここまで達成できたと、次はもう一つ頑張ろうという、やはり町民も含めたまちづくりの中ではそういう手法のほうがより効果的ではないかなというふうに思っておりますので、数値的には若干、個人的にはちょっと低いかなというふうな部分もあったわけですけども、そういう意味では、達成感を持って次のステップへ向けれるという意味では、結果的にはよかったんではないかなというふうに認識をしております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）目標を定めて、変化は必ずあると思います。３２年の５年先見てですね、変化はあります、そこでいかにどう対応するか。ただ、こちらのほうの総合戦略の中身を見た場合に、計画の段階、分析された内容、十分、物すごく分析されてます、先の内容を見ておられますが、実際にこれを、計画をどのように具体的に進めていくかということがうたわれてない。最後の事後チェックだけは第三者評価委員会でとなっております。これは国の補助金といったらいけないですけど、そういった交付税が必要なために、それとも国から第三者委員会をつくりなさいと言われていたのか、そこをお聞きしたいんですが。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）これはある程度流れが決まっておりましたので、正直言ってそういう部分があったというふうに思っております。したがいまして、多分どの町の総合戦略の計画を読んでも、前段は長いけども、後半のところはまだ多分定まってないんだろうというふうなのが実態だろうというふうに思っております。いわゆる半年間の間に出すというふうなことがありましたので、それをやっぱり期間的な部分で言うと、若干難しい面があるのかなと思っております。ただ、今回、やはり第三者評価委員会でもあったというふうに思っておりますけども、一つの例を挙げますと、例えばシングルマザーの移住促進というふうなものを上げておりますけども、これはＣ評価になっております。ただ、これをシングルマザーというふうに捉えるべきなのか、もう少し広範囲に子育て世代というふうなふうに捉えたほうがいいのかというふうなのは思っております、個人的に。そういうふうなところはやっぱり変えていかないといけないというふうに思っておりますし、もう一つには、やはり国の方向としてインバウンド、観光対策というふうなことも入ってきております。きょうも新聞等にも、いわゆる境港の大型旅客船の接岸、そして香港便の飛行機のチャーター便なりの定期運航というふうなこともあっておりますので、そういうことが日南町の中にどういうふうな影響があるのかわかりませんけども、それらも踏まえた、大山１３００年もあるようですし、お隣では、たたらが、鉄の、日本遺産になったという島根県の例もありますけども、そういうことも踏まえた中で、日南町の立ち位置も考えていかなければいけないというふうに思っておりますので、やはり少しずつ見直しをしていくということが必要だというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）町長のほうから、国の回答は９月末、半年ぐらいということですから、９月ぐらいというように聞こえたんですけども、第三者評価委員会を設置の要綱を委員会のときに配られました。こういうのがつくられたんだなと。それで、ことしの８月１日につくられたということで、要綱見させていただいたんですけども、内閣総理大臣に提出するというのが最後のくだりなんですけど、ただ、これ時期が書いてなかった

ので今あえて質問したわけです。半年ぐらいの後ということですので、今月末になると思います。
　評価委員会を見ておったときに、確かに２時間半も、最初から終わるまで、８時過ぎてたと思うんですけども、説明が７割ぐらいかかったと思うんです。最後に評価委員会での評価はどうだったのかと、その場ではこの中には評価委員会の議事ということを書いてありますが、この議事はあったのかなかったのか。あれば議事というのは議決をしなければいけませんが、委員会としてはそのようなの見えなかったんですが、どうなんでしょうか。
〇議長（村上　正広君）中村副町長。
〇副町長（中村　英明君）第三者委員会につきましては、町長が不在の中での会議ということでありましたので、私のほうから御説明させていただきたいというふうに思っております。
　まず、委員会につきましては、初めての会ということもあったというふうに思っておりますけれども、御案内のように２時間半という会議設定をさせていただいて、実際最初のときには、会の前には、ちょっと長いのかなというようなイメージもありましたけれども、とはいいながら最初でありますし、また項目数も３１項目あって、それの説明をし、それに対する委員の皆さんの御意見を頂戴するという流れの中でスタートしましたけれども、御案内のように説明が７割ぐらいあったかなというふうな御意見いただきましたけれども、７割かどうかは別として、ちょっとやっぱり会全体の流れとして説明のほうが長かったなというふうには反省をしているところであります。
　あわせて、それぞれの項目につきまして説明させていただきながら、それについての、大きく４項目ありますので、４項目の中で担当課のほうから説明しながら、２７年度の実績及び２８年度の動きの経過も含めて説明させていただきながらさせていただきました。最終的にはちょっと時間が足らなかったというのが正直なところ思っておりまして、会の運営の仕方っていうところも、多少今後は反省を踏まえながら考えていきたいなという反省は持っておりますけれども、実際たくさんの御意見を皆さんにいただきましたので、その御意見を踏まえて、評価的なところとして今回の場合は整理をしていきたいというふうに思っておりますので、どういいましょうか、うちのある程度また内容的には提案をしている、いわゆる削除しとる項目といいましょうか、今回の当初つくりました総合戦略の項目について、内容を見直しながら、部分的にですけれども、今回の戦略のＫＰＩも含めた形での削除したり、あるいは合併したりというような提案もさせていただいておりますので、それについては御意見がなかったというふうな思いを持っておりますので、最終的にはそういう整理をさせていただいたというふうに思っております。
　議決という具体的な行為がなかったかもしれませんけれども、進行上の中で御意見がないということでありましたので、そういう会議の進行になったということはありますけれども、次回に対してはそういったことをきちんと踏まえながら、会議の進行を進めていきたいというふうに思っておりますので、御理解いただければというふうに思います。以上であります。
〇議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
〇議員（６番　大西　　保君）一番評価委員会で大事なとこじゃないかなと思うんです。議決というよりも、これでよろしいでしょうか、承認してくださいという言葉でもいいんですが、そういった言葉も全くなかったので、あえて聞いたんです。この項目の中にいいこと書いてあるんですよ。委員会の職務と書いてあります。ここは、第三者の視点から評価を行い、その妥当性を検証すると。だから、第三者がどのような評価をする、やり方ですね。それと妥当性は、誰に対しての妥当性を見るのか。この２つの項目が検証のチェックの一番大事なところでございます。それについてどうされてるのかが全く見えないし、１４名の方、すばらしかったのは、委員が今１４名と言われました。出席者１４名、１００％です。これについては、事務局というんですか、そこが大変苦労されたと思います。こういった重要な委員会で１００％の出席して、皆さんから御意見いただいた、助言いただいた。この進め方についてはもう１００点満点だと私は思っております。せっかくそうなのに、そこに来られた方が事前に資料も配付されて読んで来とられたと思います。だから、逆にどれぐらいの評価をするか。私がぱっと見たときも、自己判定は書いてあったんです。皆さん方が各課単位で自己判定を書かれた。それはいいです、自己判定ですから。ただ、評価委員会での評価が全くないので、この評価委員会、あくまで１年目ですから、一番大事なんですよ。１年目だから、これをうやむやにしたら２年、３年ももっとぐちゃぐちゃになります。もうやっただけになってしまうと思います。やっぱり１年目が大

事だから、あえて私は質問しておるわけです。その妥当性はどのような、検証方法については事務局はどう考えておられますか。事務局じゃない、執行部はどうでしょう。
○議長（村上　正広君）中村副町長。
○副町長（中村　英明君）基本的にはそれぞれの項目について、あるいは大きな区分の中で説明をさせていただいてる中で、それの項目に対して御意見を各項目ごとにいただいております。ですから、今の自己評価に対してどうかということももちろんありますけれども、こういう展開をしたらどうかとか、そういう方向性の話もどんどん出てきておりますので、そういうところを今後参考にさせていただきながら変えていくっていうことをこれから目指していきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）先ほどの副町長の答弁に補足をさせていただきたいと思います。先ほど大西議員から指摘があった点ですけれども、まさに終わった後、委員長を中心として反省会をしたところでございますけども、やはりそのあたりが欠けていたというような指摘を受けました。実際やっぱり我々が自己評価をして、その評価がどうだったかっていうのがわからないと、確かにほんまに我々がやっていることが正しいのかっていうことがはっきりしないまま次の事業に進んでしまうということになってしまいますので、次年度以降はやはりそういったものをきちんと委員の方々に指摘をさせていただいて、こういった観点でこの委員会を進めたいというような話をきちんとしながら進めていきたいと思います。先ほど副町長のほうからも話がありましたけども、そうはいっても、いろいろ今回の評価委員会の中で、今回の取り組みに関してもう少しこういうふうな取り組みにしたらどうかとか、そういった前向き、建設的な意見がありましたので、そういったものはきちんと反映をしながら進めていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）進め方も御検討していただいたらいいと思います。私もこの評価の中の３１項目については大変見にくく思っておりました。確かに文章が多く書いてありましたし、確かに赤字で書いたところ、変更するとあったと思うんですけど、本当に時間がないぐらいにありました。
　そこで、一つ、ホームページ見ておりましたら、ことしの３月３０日に２７年度の実施事業ということで出ておりました。時期的にいいますと、２７年度の事業は３月で終わる。３月の末には、ことし２８年度の事業内容がもう出ております。この検証、自己評価されたのはいつされたのか。今まとめておられます、この件ですね。これはいつまとめられたのか。要するに、これとのこれの整合性ですね。こっちはもう２８年度事業ももうスタートしとるわけです。通常ＰＤＣＡでいくならば、前年度２７年度終わった反省をもとに２８年度事業がスタートするか、それは当然並行に走っとる場合もありますからいいですけど、ただ、大きく、またページもたくさん、項目に細部にわたって書かれておられます。この評価委員会用につくられたのがいつぐらいにつくられたんでしょうか。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）自己評価の策定時期でございますけれども、ことしの６月上旬から作業を進めて、６月末までに作業を完了したというところでございます。御指摘のとおり、先にやはり今年度事業っていうのが先行して、その後去年の振り返りという形になってるんですけども、予算編成の時期というものもあるんですけども、なかなかその辺でいうと難しいところもあるんですけども、今回、評価委員会自体は８月１９日にやったんですけども、やはり個人的には、遅くとも６月末ぐらい、ゴールデンウイークぐらいにはある程度昨年の事業の振り返りをして、今年度事業の執行自体がきちんとその反省に踏まえてスタートできるような仕組みというものが必要かなというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）これには評価委員会はいつすることになってますか。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）４月から５月をめどにというふうに記載のほうさせていただいております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）ですね、４月から５月をめどにと書いてありますから、４月でも５月でもいいわけですけども、いや、もう８月の終わりでしたということです。つくられて１年以内にもう変更のような感じですね。あくまでめどですから、幅は言いません。

　実はこういう５年計画でつくっておられるのは、私、知っとる限りで環境の基本計画も５年計画です。ここでも自己評価されましたけども、これは２７年度の年度ごとの計画数値はあったんでしょうか。２８年度の計画数値、２９年度の計画、それで３２年度の目標を達成するためのこういった年度ごとの数値はあったんでしょうか。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）今回の策定時においては、年度ごとの目標値なりというのは立てておりません。あくまで５年後の目標値ということで書かせていただいております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）この文面の中に年度ごとと書いてありますけども、どっかのとこに書いてあります。最低でも年度ごとに目標数字を定めない、例えば単純に言いますと、平成３２年には５年先ですから５０だと。そしたら前年は４０、次に３０、これでもいいんですよ、あくまで計画ですから。それに対してこれはあると思います。それを言っておるんです。それもなくして、１年あれば今度は月の計画、必要なんですよ、仕事をやる場合は。月というといけませんけど、逆に言ったら４分の１ずつ、３カ月ごと、四半期ごとにずっと事業計画つくっていくわけです。だからもう５年間ごおっとここだけ目指して、ここらはわからんからそれに対して評価、だからそこの自己評価というのがどれを、上を見過ぎて、だから自己評価ＣにされたのかＢにされた、Ａにされた。だから１年目でもＡというところがあるわけですね、そのＡは何ぞやと。僕は今、私、３１項目細かいことは言わないと言ったんですけども、例えば道の駅で５０品目やろうといったら、もう１年目で１４なんですよ。達成Ａですね。２年目は何ぼするんだと。いや、２年目は２０ならええと、あと６つだというのか、倍の２８するのか、ちょっとわからない。大事なのは、年度ごとの数字、また月いう形で、ここに評価委員会の実施要綱はつくられてますが、本当の運営の実施要綱をつくる気はございますでしょうか。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）運営の実施要綱までとは言いませんけども、やはり５年間でこの事業をどういうふうに回していくのかという部分の、総合戦略とは別の進め方なりの手引と申しますか、そういったものは必要かなと思っております。逆に、今そういったものがないということなので、各事業が進んでいたり進んでいなかったりものっていうものがあるかというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）私はこの１年ちょいの間、いろいろ質問してきましたのは今のことなんですよ。本当に実施要綱、条例までつくらなくてもいいと思うんですけれども、最低ここに５Ｗ１Ｈとかいう形でつくっていってはどうかと。要するに、環境も同じことなんです。書いてあるんだけども、一つの事例言いますと、連絡会議、課内連絡の連携とるための、町長今言われました、課の連携がとれてないなっていうことを指摘されました。じゃあ、この総合戦略の連絡会議についてはどういうように進められるのかお聞きしたいです。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）冒頭、町長の答弁からもありましたけれども、まずは全体の事業というものを私のほうでいま一度きちんと俯瞰をした上で、各課、どの事業がどの課にかかわるとかそういった整理をまずさせてもらって、そこからそれぞれの役割分担というものが明確になるかと思っておりますので、そこをやり次第、各課のほうには指示のほうをしたいというふうに思っております。
　それと、総合戦略、策定したのが８月末ということで、私が日南町に参りましたのが７月１日ということでございます。実際、今、私自身いろいろ振り返ってみて、いろいろ日南町のいいところであったり悪いところであったり課題であったりというのが全く見えてないままで策定したということになってまして、そのあたりでもやはりちょっと反省点というものも感じております。ここに住んで１年経過したところでございますけども、先ほど申しましたような町のいいところであったり悪いところであったり課題というものが見えてきて、その上でいろいろ総合戦略のほうを見させていただいたところ、やはりいろいろな点で問題があるなという点も感じておりますので、そういったことも注視しながら、いま一度きちんとこの総合戦略を全般的に整理のほうをしたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）このとおりいったら問題意識があれば改善してよくなって

いくと思うんです。今、山中専門監がちょっとお話あった中で、日南町公共交通総合計画策定報告書がことしの６月２日に公表されました。中身見させていただきました。相当分析されたし、今後課題もあると思うんです。やりながら改善していくということで、それはいいことだと思います。分析内容とかヒアリングとかいう形にして、課題は課題としてまた１年間運用してまた変えていきましょう、皆さんの、住民のために、みんなのためにコンパクトビレッジを、いろんなことを。私は時刻表も見させていただきました。まだまだ問題があるかもわかりませんが、だけど僕としてはそういった課題でターゲットを決めて、具体的な内容、そして分析の仕方はすばらしかったと思います。それをいかに日南町の中でいろんなことに生かしてもらいたいし、もう一度言いますけども、月に１回、毎月、そういうできたかできなかった、各課単位に評価できると思うんです、月単位の。毎月そこに入力さえしておけば、いつ何どき、今までの実績出せと言えばすっと出てくると思う。今までしてないから、また４月から戻って半年間調べないかんわ、例えば簡単な事例でいきますと、まめな水を道の駅に売りますよと、今年度は。じゃあそうしたら、４月、５月、６月のまめな水の売上本数は何本だったんだと、累計と。それは毎月月末に道の駅から情報聞くとかすれば、いつ何どきでも課内会議やりましょう、連絡会議やりましょうですぐ出てくるわけです。同じことが環境の問題でも全くそれがないと私は見ております。担当課だけがやってるではないでしょうかと思います。ですから、できる限り、実施要綱とまでいきませんけども、もしこれを修正されるならばそういったことを織り込んで、やっぱり運用の仕方ですね、そういうことを検討されたらどうかと思いますが、どうでしょうか。
〇議長（村上　正広君）山中専門監。
〇地方創生専門監（山中　慎一君）大西議員の御指摘のとおりだと思っております。きちんと総合戦略、進捗状況の管理等も含めて、そのあたりの運用的なものを私のほうでつくって、今後進めてまいりたいと思います。
〇議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
〇議員（６番　大西　　保君）それと、評価委員会は６月末ぐらいまでにはということで答弁あったわけですけども、それするんならば、３月末までに１年、年度で集計をするとか、４月になってからするとまた人事異動で担当かわったとかいろいろあるので、例えばやっぱり逆算の仕事をして、ターゲットが３月末、例えば６月末になれば、逆算の仕事、いつ何をしなければならないかいうことをやらないと、言いわけばっかりの場合は足し算の仕事というんです。言いわけすれば、また１カ月ずれます、いや、何だか、町長がいないからずれましたとか。言いわけの仕事するとどんどんどんどん時期がずれていきます。ターゲット決めたら逆算の仕事をして、そうすれば、今週、きょう何をしなければならないかという仕事が明確になると思うんです。ちょっと私が余りそういうことを言ってはいけないと思うんですけど、そういった形でできる限り、将来のために、将来の地方行政をやっていく中でこれはいい事例なので、月々こういうことを会議はやりましょう。時間は、大体１年間１，８００時間あります。月は１６０時間になれば、その１％でもいい、１．６時間でもいい。１時間も要らない、３０分でもいい、連絡会議は。忙しいんじゃないです、それに皆さんが合うときに、代理でも結構です。そこでやはり逐次逐次、情報をとりながらやるシステムを、どの仕事に対しても、環境の問題についても、その他の課の問題についても、そういった形を何らかの形で仕事のやりやすいように、運営方法としてはいけませんけど、例えば、町長、そういったものを何か、今まで私は環境問題とこの問題について質問したんですけど、そうした仕事のやり方についてのマニュアル的なこと、マニュアルだとかた苦しいですけども、そんなかた苦しくない、本当に誰でも担当の者ができるようなマニュアルをつくる気はございませんでしょうか。
〇議長（村上　正広君）増原町長。
〇町長（増原　　聡君）先ほどの大西議員の質問の中でも申しましたけども、やはり例えば地方創生の重点戦略という話をすると、何か仕事がふえたというふうな捉え方をする職員も正直言っているというふうに思っています。先ほど山中専門監が非常に苦しい答弁しましたけども、山中専門監自体はもう既に去年の実績を早く出してほしいということは何回も課長会議で口を酸っぱくして申しているんですけども、なかなかそれが全部そろわないというのは、やはりある意味ではちょっと余分な仕事というふうに捉えているという、私は見方をしております。しかし、これ余分な仕事ではないわけですね。自分のやってる仕事の中の一部なわけです。それが当然、他課と交わっているか交わっていないかとか、ＫＰＩの中の重点戦略の中に入ってるか入ってないかだけの話でありまして、それの実績というのはやはり出てくるというふうに思いますので、そういう仕事の仕方というのは必

ずどの部分でも必要だというふうに思っておりますので、そういうふうにより進めるように指導もしていきたいし、次年度からそういうふうにやっていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）きょう、先ほど言いましたが、細かいことは言わないようにしておるんですけども、やはりこの反省をもとにＰＤＣＡと本当に対策を打たないかんのです。ただ単に数字を書いただけじゃなしに、やはりそれも当然分析をしなきゃいけません。
　ちょっとほかの事例でいきますと、地球温暖化防止計画が７月２９日にホームページに公表されました。一応それも見させていただきました。その中でＰＤＣＡが書いてありましたけども、あのＰＤＣＡはちょっとおかしいと思うんですけども、これ質問外になるかもわかりませんけども、私は同じことだと。ＰＤＣＡが本当に回るんならば、ＰＤＣＡを上手に回していただきたい。ですから、今言ったのはスケジュール、６月に評価委員会が最初あるならば、何月までに資料を出さないけない。町長が言われましたプラスアルファの仕事ということ。私はこの総合戦略は重要な仕事だと思ってる。逆にそちらのほうが、普通の仕事はルーチンで日々決まったことをやればいいわけです。それをいかに要領よくやって、この総合戦略に時間を割かないと。いや、仕事ふえたから残業ふやしましょうじゃなくて、やはりそういった改善しなければ、問題点も明確にしないと、ちょっとＰＤＣＡの何か簡単に考えられているんじゃないかなと。
　そこで、じゃあ町長に聞くんですが、環境のＩＳＯ１４０００をとられたときに、事務局はどちらがされたんでしょうか。環境ＩＳＯ１４０００。
○議長（村上　正広君）質問が、総合戦略と環境との話。
○議員（６番　大西　　保君）ええ、ＰＤＣＡをちょっと言いたいので。
○議長（村上　正広君）高見総務課長。
○総務課長（高見　正司君）総務課のほうで担当しておりました。その中身としては、特にその中で事務所内の整理であるとか処理を含めて、そういうものを含めて作業を進めておりました。
○議長（村上　正広君）６番、大西保議員。
○議員（６番　大西　　保君）ちょっとそれは実行のほうで、本当言うと進め方のことを聞きたかったんです。というのが、ＰＤＣＡは環境も同じだし、この総合戦略も同じなんですね。だからそういったＰＤＣＡを理解しとかないと、タイムスケジュールもわからないんですよ。だからＰＤＣＡがぐるぐる回っておかしくなってしまっとんです。というのは、３月までの実績を早く出して次年度の事業に生かさないと、もうどんどんどんどん事業だけが、予算の関係あるからどうのこうのってどんどんどんどん事業されますけども、本当のＰＤＣＡは過去の実績を反省して次に行かないけないのに、来てないので、あえて私言うのは、これの運用の仕方についてもう少し詳しく運用方法を修正されたらどうでしょう、修正というか追加されたらどうでしょうかと思ってるわけです。それは将来、あと平成３２年度までやる中で、まだ１年目ですから、この改訂版なり追加の資料をつけるなりして、やっぱり運用方法をきっちりしとかないと、担当課も誰がするかまで、いつまでするかということを、一番大事なことを今言ってるわけです。これを改定されて、本当にあと４年、３２年度までだったら。そうされないと、また環境と同じ、ぐちゃぐちゃになると思うんですが、どうでしょうか。これをつくられるかどうかです。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）いろんな日程もあるというふうに思っておりますけども、スケジュール感というのは持って、そういうものの示し方はしてみたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）よろしいですか。
○議員（６番　大西　　保君）ありがとうございました。終わります。
○議長（村上　正広君）関連質問がありますか。
　７番、坪倉勝幸議員。
○議員（７番　坪倉　勝幸君）総合戦略、初めは総合計画やいろいろあるんですけども、この総合戦略について、町長の認識について伺いたいと思いますけども、総合戦略、６０数名の町民が方針として町に提言をいたす。谷本先生を座長として、方針を提言いたしました。それを具体的な総合戦略としてまとめられたのは、町長の命を受けた副町長をトップとする自立改革推進本部の皆さんであります。そういったことからして、町長の先ほどの答弁にも、数値目標が適当だったかどうなのか疑問があったとかというような発言もあ

るわけ、そういう言葉じゃなかったんですが、数値が低かったとかっていうような発言もあったんですけども、やっぱり町長として、この総合戦略５年間でやり切りますかという質問を以前したことがあったと思うですし、私の発言として、これ町民との約束ですよねという発言もいたしました。それが１年たたないうちに、見直しと称して大きく項目が削除されたり、目標値が大きく下げられたり変更されたりしておると。その計画を策定時点でしっかりとした、町長を含めた、あるいは自立改革推進本部の中でしっかりとした議論がされておったのかどうなのか、今さらながらに疑問に思うわけであります。
　例えば農業関連グッズをつくって新規参入を呼び込みますよというような言い方、事柄に対して、そういうことは必要なくて、ほかの方法で取り組む方法を今度検討しますというようなやり方。それから移住定住についても、シングルマザーとスローライフをターゲットとして移住増加を目指すということは、総合戦略のみならずこれまでの発言の中にもあったわけですけども、それを具体的にシングルマザーとスローライフに限らないっていう形で見直しをされておる。ほかにもたくさんありますけども、やっぱり計画策定時点でしっかりとした議論がなされておれば、１年もたたないうちにこういった大きな変更がなされるのはちょっと不思議なんでありますけども、やっぱり計画策定時点の議論と、今の町長のこの計画に対する認識について伺います。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）私は正直言って今の御質問の趣旨がよくわからないんですけども、大きな変更があったというのが一体何なのかと。例えば先ほど私申しましたシングルマザーというふうな言葉を上げておりますけども、これについてはちゃんとシングルマザーというふうな形での表現ではなくて、Ｉターンなり子育て世代の中に包括をするというふうなことを言ってるわけですので、日南町がＩターンの方を受け入れないとかスローライフの方を受け入れないというふうに言ってるわけではないわけですね。そういうふうなものを一つ一つ全部一回、皆さん方が、６０何人の方が一生懸命つくられたものを一つ一つあげつらって、これはここの表現おかしいねとかやり出すと、それはやはりおかしいんじゃないかと。これは議会も含めて何回も議論をされた中で認めたものであります。そして、これは毎年変えていく、より上のものに変えていくというのが当たり前の姿だというふうに思っております。これをスケールダウンして、例えばＩターンが３０人だったのが、Ｉターンが３０人だったからもうそれはいいから消そうという話をしておるならば、それは非常に私はおかしいというふうに思っておりますけども、Ｉターンの方が例えば３０人の目標だったのが１年で達成したから、それはもっと高い数値に上げていこうというのがこの計画の本来の姿だし、地方創生を達成するための大きな原動力だというふうに思っております。
　また、私も任期がございますので、５年後に今の職にいるか知りませんけども、仮にいようといまいと、私自身はこれに対しては常に協力をして、みずから率先してやっていくつもりでありますので、その気持ちに全く変更はないというふうに私は思っております。
○議長（村上　正広君）規制をしますよ。
　７番、坪倉勝幸議員。
○議員（７番　坪倉　勝幸君）この３１項目なりＫＰＩの目標数値っていうのは、策定会議でまとめたものではありません。方針としては提言しましたけども、この３１項目にまとめられたのは執行部の皆さんであります。ＫＰＩもそうだと思います。ちょっとそこだけは確認をさせていただきたいと思います。（「答弁」と呼ぶ者あり）
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）数値につきましてはそういうふうな、確かに行政的な数値で上げておりますが、そこの部分については訂正させていただきます。（「３１項目」「項目」と呼ぶ者あり）
○議長（村上　正広君）項目を３１項目に絞ったのは執行部ですかという。
○町長（増原　　聡君）いや、項目というのは、どちらにしても全部出たものを当然、この中には正直言って、例えば日南町に遊園地をつくったらどうかというふうなものもありました。そういうふうなものも含めて出すというふうな形ではないわけでありますので、当然何らかの絞り込みは必要だったというふうに思っておりますので、それは行政なり、また委員会の中でも絞り込まれたというふうに認識をしております。行政だけが一方的に３１に絞ったというふうな見方はしておりません。取りまとめたり集約させたり、それから本当に実現可能性のあるものを、そして目指すものを上げてきたということだろうというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（村上　正広君）ここで暫時休憩をいたしたいと思います。再開は１０時３０分といたします。

午前１０時１６分休憩

午前１０時３０分再開

○議長（村上　正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。
　引き続き一般質問を行います。タブレット、２ページ。
　１０番、久代安敏議員。

○議員（10番　久代　安敏君）私は今期９月定例会において、日本共産党の議員として執行部の姿勢を問います。
　まず、冒頭、町長の発言にもありましたように、去る８月３０日の台風１０号の豪雨災害で、東北の岩手県を初めとして北海道など、本当に多くの人が犠牲になられた。大変胸が痛む次第です。また、道路が寸断されて、今なお多くの人が避難生活を余儀なくされていることに対して、心からお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。一日も早く普通の生活に戻れるよう、国や県の対応を求めていきたいというふうに思います。
　さて、参議院選挙から間もなく２カ月。そして、秋の臨時国会が今月９月２６日に開会されることになっています。私は、今回の参議院選挙、野党共闘で、特に３２の一人区で１１議席を獲得した主に東北の県、そして福島、沖縄、この勝利は大きかったというふうに思います。といいますのも、６月定例会で、一般質問で、この野党共闘が掲げている政策、安倍政治に対して何とか政治を変えていきたい、そういう願いが、まだ道半ばではありますけども、実現できているのではないかというふうに考えています。そして、その選挙で、石破地方担当元大臣が、地方創生元大臣が東北、岩手の遊説でアベノミクスの円安、株高で、岩手県民の人には恩恵がないだろうと、恩恵が伝わっていないだろうと、実感はないだろうという遊説をいみじくもされていました。やはり今、地方自治体は本当に深刻な状況にある。これを何とか変えていかないといけないというふうにさらに肝に銘じているところであります。
　さて、まず、第１番目に、同僚議員も先ほど質問されましたけれども、地方創生ということについてお聞きしたいと思います。まち・ひと・しごと地方創生法に基づいて昨年８月２０日に策定されました総合戦略、これを確実に達成することを目的に、第三者委員会が過日８月１９日、文化センターの多目的ホールで開催され、先ほど質問された同僚議員と、たまたま私も傍聴人として参加していました。非常に中身の濃い、いろんな課題がある、そのことを私も傍聴させていただいて実感いたしました。まさに日南町役場全課を挙げて取り組まなければならないことがいっぱいだというふうに感じた次第です。ということで、この評価委員会に提出された内容とこの委員から出された質疑、意見、これを政策にどのように反映されていくのかという質問であります。もともと私は地方創生という、地方創生法に基づいて始まった制度ですけども、本当に、言えば中央省庁の上から目線で、いいアイデアを出せばお金をつけてやるという基本的な態度がもう見え見えでして、そして先ほども質疑や答弁もありましたけども、やはり向こう５年間で、国も経済産業省と常に計画を変えていってます。法律も改正しています、地方創生に関係する。今月８月でしたか、中国地方での説明会もブロックであったようですけども、やはり先ほど町長も答弁されたように、もう毎年、あるいは１年経過しなくても、逐次計画はやっぱり変えていくべき内容のものであるというふうに、私は今回の策定委員会の傍聴をさせていただいて感じました。
　本当に日南町をどうしていくのかということでありますけども、私は例えば町長が創造的過疎と言われることで人口問題が一番大切だと言っておられますけども、その点についても、やはり本当に日南町を維持していくために、継続していくために必要な人口とは何人おればどうなのかということも真剣に考えていく必要がある。かつて１万６，０００人、約６０年前に１万６，０００人いた人口が、直近で４，７００人に減っているわけです。そういうことから見て、それでもなおかつ我々は頑張ってこの町を継続してきたんだということをやっぱりきっちり位置づけて、先に向かっていく必要があるというふうに考えています。この点で地方創生そのものの議論はやっぱりこれからもずっと続いていくと思いますので、この点についての答弁を求めて、私の質問を終わりたいと思います。以上です。

○議長（村上　正広君）執行部の答弁を求めます。
　増原町長。

○町長（増原　　聡君）久代安敏議員の御質問にお答えいたします。
　まず、先ほど大西議員のほうからも質問がありましたので、若干多分重なる部分もあるというふうに思っていますので、重なる答弁があるかもしれませんが、その辺お許しをいただきたいということをお断りさせていただきたいと思っております。また、久代議員も指摘されましたように、私も全く同感でありまして、なかなか同感というのは時々しかないんですけども、今回の場合は本当に全く同感でありまして、地方創生というのは私は国からお金が出ようと出まいと、これは絶対にやらないといけない。これは地方創生という名前のものをやるとかやらないのではなくて、日南町再生というものは必ずやらないといけないというふうに思っております。それがやり切れない自治体は、やはり消滅をする自治体になるんだろうというふうに思っております。
　したがいまして、やはり時期を見たり、タイミングを見たり、国政の動きを見たりしながら考えるということが必要だろうというふうに思っております。具体的に言いますと、国では少し正直言って、地方創生という、どういいますか、熱は、フィーバーは少し冷めてきたんではないかと。はっきり言いますと、一億総活躍ということを言い出しましたし、地方創生というふうな本部におきましても、官僚のキャリアの皆さんも非常に兼務の方がふえてきたということを見ると、やはり少し冷めてきたというふうに思っております。ただ、石破前大臣も言っておられますけども、やはり同じような意識を地方が持たないと成り立たないと、とにかく地方創生をやり遂げるんだという気持ちをやはり持って進んでいきたいというふうに思っております。
　今回、評価委員会があったわけでありますけども、今回の評価委員会の場では委員それぞれの立場からいろいろな質疑、意見が出たところであります。特に今回、経産省のほうでは、地方創生の担当の地元の方というふうなことを選任されまして、今回日南町の担当の方は、母親のほうは日南町の生まれですし、父親のほうは庄原市の生まれというふうなことで、非常にそういう意味では土地カンもあったり、いわゆるある意味ではふるさとのことを思っていただける方ではないかなというふうなことも思いながら、委員会のほうの期待をしているところであります。
　それぞれ個別事業が複数あり、それについて各担当でしっかり振り返りながら事業を進めていく必要があるというふうに考えております。とりわけ、町として必ずやらなければならないことは、複数ある個別事業、先ほども大西議員のほうから言われましたけども、個別事業の相関性をはっきりさせて進めていくという点が必要だというふうに思っております。一つの事業を行うに当たりましては、複数の課にまたがる事案であったり、担当課の中でも現にやっている事業と内容が実際は同一であるというふうなこともあるというふうに思っております。今回の評価委員会の自己評価を行った段階で明らかになってきたところであり、各委員からもそのような点の御指摘を数多くいただきました。具体的に申しますと、例えば農業後継者というのは、別にこれは地方創生ということではなくて、農林課なりの仕事であろうというふうに思っておりますし、当然そういう後継者を受け入れるということは複数の課にまたがる事案であるというふうに思っております。これは総合戦略を効率的かつ効果的に進めていくためには、必ず整理をしなければいけない事項でありまして、まずは自立改革推進本部を中心に、それぞれの事業の相関性、どのようにかかわるかということをはっきりとさせ、職員には、先ほども申し上げましたけども、総合戦略は地方創生のための仕事ではなくてみずからの仕事であるという認識を持って、何をやるべきなのかという点を明確にし、お互いに連携しながら進めていかなければならないというふうに思っております。
　以上、簡単ではありますけども、久代安敏議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。
○議長（村上　正広君）再質問がありますか。
　１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）最初にちょっと、第三者委員会に出された資料と、今回ＰＤＦで、午後からある全協の中で出された資料の中で、物見遊山という言葉があるわけですけども、これ、ここの観光戦略スケルトン案で、この物見遊山の「見」が「味」になっていますけども、何か意図があるのか。普通、物を見る遊山、いろいろ歩いて回るということですけども、前回、私、どうなんだろうかという、要するに観光そのものを検討していかなければいけないということだと思いますけども、どうでしょうか。それをちょっと一点確認しときたいと思います。資料の確認です。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）久代議員の御指摘でございますけども、打ち間違いで

ございます。特に深い意味はございません。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）まず、地方創生ということで、一番大きくうたっておられます、日南町も人口ビジョンということです。これは、この発端は、いわゆる２０４０年問題という日本創成会議が発表したことに基づいて、人口が急激に減っていくぞということの中から出た数字で、一応のシミュレーションですけども、この２０４０年までに２４年あるわけですよね、２４年です。今、２０１６年ですから。２０４０年というときをシミュレーションした、人口動態を。これについて、日南町の人口がこれほど大幅に、高齢化、少子化も含めて減少してきた理由と、日南町は３，４２７人を２０４０年に設定するという町長のおっしゃる創造的過疎で努力していきたいと。この計画の根拠ということをちょっとお聞かせ願いたいと思います。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）まず、人口がなぜこれだけ減ったかというふうなことは、一つには産業構造があるというふうに思っております。日南町の主要産業は農林業でありますけども、御承知のとおり、昭和３０年代末には自由化というふうなことで、山で食えなくなったということが一つあります。
　それと、もう一つは、農業というのが機械化をしてきて、いわゆる農業の中の働き手というのがそんなに、だんだんだんだん少なくなっても済むようになった。いわゆる昔は手がわりとか家族で田植えをしたりというふうなことがあったわけですけど、機械化の中でそういうふうなことがなくなったという一つの地元の中のものもあるというふうに思っております。産業構造が変わってきて、いわゆる繊維工場に働きに行ったり、町内でもそういうふうなこともあった。当然、一部のところを見れば、例えば鉱山が閉山したとかそういうふうなこともあろうというふうに思っておりますけど、大まかな全体で見ると、そういう産業構造が一つ変わったということがあっております。
　それと、もう一つは、やはりいわゆる都市が人を求め出したということであります。昭和３８年ぐらいから４０数年までかけて、四十四、五年までは、大体１年間に１，０００人ぐらいの人間が流出しております。いわゆる金の卵と言われた中学校卒と、そして高校卒も含めて、日南町から都会へ働き手として流出していく。今、関東、そして中部、関西、そして山陽圏等も含めて、膨大な数の、１年間に１，０００人という本当に膨大な数の人が約１０年間ぐらい、その方々が出ていかれたという。逆に言うと、それだけ転入がなかったという、転出であったというふうに思っております。
　それと、もう１点は、過疎という言葉が始まって５０数年たちましたけども、過疎が始まった中国山地の一つの例としては、家ごと出ていったというパターンももう一つあったというふうに思っております。今、米子近辺に住まわれてる方や山陽方面に住まわれてる方もおられますけども、家族そろって出稼ぎをした中でそちらのほうに移住をされたという、いわゆる山間部と都市部が非常に近いという中国地方の特性が一つあったというふうに思っております。そういう中で人口が減ってきたと。ただ、今の人口の形態からいうと、はっきり言いますと、死亡する方の数が非常に多い、高齢化社会の中での死亡する方が多い。既にことしの１月からきょうまでで９０数人の方が亡くなられておられます。１年間に１３０人ぐらいの方が多分亡くなられるというふうに、悲しいことでありますけども、想定をしております。そういう中で、自然増減という話をしますと、出生数については、合計特殊出生数は非常に高いわけでありますけども、３人のお子さんを大抵の方が産んでおられたりして、頑張って子育てをしていただいておりますけども、大体１年間に２０名前後の出生数しかないということになりますと、確実に年間に１１０人の自然減があるだろうと。これがまだもう少しの間は多分続くだろうというふうに認識をしております。
　そういう中で、ここ数年来の動向を見ますと、その自然減の動向は変わっておりません。ただ、もう一つは、社会増減という話をしますと、若干社会減のほうが多いわけでありますけども、大体ほぼ拮抗してきたというのは、一つにはＵターン者が非常にふえてきたというふうなこともあります。それと、もう一つは、Ｉターンの方が非常にふえてきたというふうに思っております。そういう方々が仕事として、一つにはやっぱり農業、林業も含めた地場産業に目を向けていただくようになってきたというふうに思っておりますし、子育て支援等でも、今回特に保育園等でも、御主人とは別居されてお子さんとお母さんだけがこちらのほうに住まわれて、子育てをされるというケースもふえて、保育園の入園等もふえてきております。そういうふうなことも含めた中で考えていかないといけない。

今の人口問題の研究所がつくった数値というのは、たしか２０１２年の数値だったというふうに思っておりますけども、２０１２年の動向でいくと、日南町は２０４５年には２，２００人だったですかね、２，５００人、たしかどちらかの数字に…
…（「２，５００」と呼ぶ者あり）２，５００の数字になるというふうに言われております。これは実際、正直なところを申しますと、自然増減でいいますと、それを上回っております。実際の死亡と出生の相差の数字を見ると、もっと厳しい数字になっております。このままほっとくと、２，５００という数字よりもさらに下回るという数字が出るというふうに思っております。これは多分県内の自治体のうち消滅可能性の自治体が１１あるというふうに言われておりますけども、その中でもやはり５つ、６つの自治体は既に自然減でいくと、人口問題の研究所よりももっと厳しい数字だというふうに認識しております。したがいまして、日南町はこのまま何もしないと、自然減という話をしていくと、もっと厳しい数字、多分二千二、三百人の数字にまでいくんじゃないかなというふうに思っております。
今回の３，５００人という数字は、決して全く根拠のない数値ではございません。ここ四、五年のいわゆる社会増減、先ほど申しました転出をする方と転入する方の増減の要因を調べて、ＩターンとかＵターンとかそういう方々が、現在のペースで進んでいったならばどうなるのかという数字で３，５００人という数字を出しております。したがいまして、先ほど申したように、先ほどＵターンを３０人とかを今度１００人にしますという話をしたわけですけども、そういう数字が本当に続くならば、そういう傾向が続くならば、その数字はある程度現実味を帯びてくると。場合によってはそれよりももっといい数字になるかもしれません。
それと、もう一つが、やはりその中で私ども、ＣＣＲＣという言葉がありまして、いわゆる都市から高齢者の方を呼んで、地域で若干働いていただいて、その後は福祉で面倒を見ようというふうな政策がありますけども、私どもはこれは今のところは考えておりません。都市からお迎えするとすれば日南町御出身の方をお迎えをして、そういう方々に老後を過ごしていただくのは非常にいいかというふうに思っておりますけども、いわゆる都市で暮らして都市で生まれた方を日南町で受け入れて、ＣＣＲＣというふうな形での人口を維持するということは考えておりません。
それと、もう１点が、何回か申し上げましたけど、今のＩターン、Ｕターンの主力が４０代以下の方が大体８割ぐらいを占めておるということになっております。そうすると、その方々がずっと日南町に住んでいただけるならば、次にはそういう方々も含めて日南町に住んでいる方々と一緒になって、まちづくりの次の担い手になっていただけるというふうに認識をしております。そういう回転をやはり繰り返していくこと、その流れを５年間でしっかりつくっていくことが肝要かというふうに思っております。それがやはり２０４５年に創造的過疎ということで、確かに人口は減ったけども、あの町は元気だねと、高齢者から赤ちゃんまでいろいろな方がおられて、誰もまちづくりに頑張っておられるねと。今、日南町に視察に来られてる方々はそういうふうな意見を実際に持っとられます。日南町４９％という高齢化の町で、非常に暗いイメージを持ってきたけども、視察等に来ていただくと、非常に元気な町に見えましたと、そう感じましたというふうにおっしゃっております。それをぜひとも続けてまいりたいというふうに思っております。
少し長くなりましたけども、そういうふうなことで質問にお答えさせていただきます。
〇議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
〇議員（10番　久代　安敏君）かつて日南町にも講演に来られた小田切徳美さんとＮＨＫと毎日新聞社が調査した、明治大学地域ガバナンス論研究室というところが調査した資料があって、これ毎日新聞に載ってましたけど、一昨年、地方移住者が１万人を超えたと。それは過去５年間で４倍になったということで、鳥取県も移住者が全国の中で多いほうなんです。ただし、私は地方創生の中で一番問題にしたいのは、農林業研修生が先ほどの第三者委員会の中で発言されておりましたし、資料ももらっていますが、既存のやり方、農業だけで生活していくのは非常に厳しいと。それ以外の仕事で稼がないとやっていけないと。これはかつていわゆる専業農家、専業林家というのがほとんどなかったわけですね、日南町でも。もうほとんどが第二種兼業で、いろんなところで働かれながら農林業をやってこられたということをいみじくも反映している言葉だなというふうに聞きました。
今の地方創生の議論の中で、政府が始める前に、日南町は例えば農林業研修制度、これ前矢田町長のころから始められて、ことし８年目になるんですよね。ですから、とっくに、本当に日南町を活性化していく、再生していくために何がいいのかという政策もずっと考えてこられて実現されてきた経過があるわけです。やはり私が今一番問題にしたいの

は、地方創生といういわばベールで政府はいろいろやるけども、本当はそれぞれの自治体が今これを一番急がなくてはいけないということを、例えば６次産業も、なるほどいいでしょう。だけど、根本的にこの町で暮らしていける経済的な安定性、もうやれるという施策に踏み込んでやられるときに国は文句を言わないかと、これ地方創生と違うよと。そういうことが間々あるじゃないかなというふうに私は感じますけども、実際にいろんなアイデアは出せと、いいアイデアなら、先ほども言いましたけども、お金は出すよというやり方が全国的にまかり通っているんじゃないかなというふうにも感じますが、実際に担当される職員等、どう感じていられますでしょうか。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）前段で私のほうからちょっと話をしておきたいと思います。今の農林業研修生自体は、ちょうど私が総務課長のときに矢田町長に提言をして、ちょうどある産業廃棄物の施設の問題が起きた後でしたので、農林業にもう一回、日南町シフトしてやっていこうじゃありませんかという話で始めた制度であります。２代目の高橋町長のときにもやられましたけども、非常に厚遇だったために、逆に言うと地域の反発を買っていろいろ失敗したケースもあったというふうに思っております。
　そういう中で、実は今、彼らも非常に悩んでいます。去年よりもたくさんの例えばトマトを出荷しておるけども、価格的にはほとんど変わらないというふうなことで、いわゆる農業を専業をしても農業だけで食べられないという問題があります。
　それと、もう１点やはり問題なのが、農業に専業するという話の中での国の施策の直接的な支援というのは、確かに５年間の新規就農の場合には１５０万円とかという話や１００万円という話はありますけども、それはあくまでも一時的なカンフル剤、どちらかというと麻薬のようなものでして、５年過ぎたら出てこないわけですので、それで生活を成り立てているととんでもないことになってしまうということがあります。
　やはり一番大事なことは、トマトならトマトをつくって、これだけつくれば本当に生活ができるんだということができれば、正直言ってそれが一番いいと思っています。ところが、今の場合の政策としては、トマトをつくってるんだったらトマトを使った６次産業とか加工品をつくってそれでもうけなさいと。プラスアルファでしてもうけなさいということをやってるから非常に難しい。彼らが、じゃあトマトをつくりながら、トマトというのは非常に鮮度が大変なわけで、ジュースにするということが一緒にできればそうでいいですけども、なかなかそれはできない。ジュースはジュースの方でやっていただかないと、とても夜、昼全部働く、２４時間働くわけにはいかないということがありますので、そういう施策が足らないというふうには思っております。
　ただ、一つの方法としては、今、農林業研修生の指導をされてる農家の方もおっしゃってる部分がありますけども、農業、林業、プラスエックスと。例えば山上でいえば農業プラス除雪とか、そういうふうな形で成り立ってる方もおられます。ただ、これが全員に成り立つかということになると、それもまた非常に問題であります。やはり行政としては、農業プラスエックスというふうなもので仮にやるしかないのならば、一つにはそういうふうなものを提供する場をより広く相談をしながら、その方の御希望に沿えるようなことも考えていかないといけないというふうに思っておりますし、一番もう一つの大事なことは、本当を言えば専業が一番いいわけですので、夏、働いて、冬はちょっと拾い仕事でもこたつの守りでもいいわけですけども、しっかりこれだけ出せばこれだけもうかるという動きの中で、今の販売形態、いわゆる例えばＪＡならＪＡだけとか。実際、日南町の中でも頑張ってる方は、朝どれ野菜に出したり、ＪＡに出したりして、道の駅に出したり、アスパルに出したり、いろんなプレートを持たれて、土台を持たれて、販売先を持たれて活躍されてる方もいるわけですので、そういうふうなやはり方向もあり得るのではないかなというふうに思っておりますので、その辺の含めた検討も必要かなと思っております。
　特に私ども今考えておりますのは、本当に今、農林業研修生が、育成も含めて、ある程度の年数たちましたので、彼らが本当に定着してもらえるのか、非常に厳しい、今回状況だろうと、かつかつの状況だろうというふうなことを認識しておりますので、その辺は担当課とも十分話をしてみたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）今、答弁されましたけども、特に林業研修制度が始まって８年にもなるし、今、Ｉターン、Ｕターンも目標数値に上げて、地方創生の中で頑張っておられますが、基本的には安定した暮らしですよね、経済的なこと。確かにお金だけではない面、田舎暮らしを求められる人はあるかもしれませんが、基本的に子育ての世代の方はやっぱり経済的な安定性が一番に求められると思うんですね。

　そういう中で、例えばことしの米価ですけども、米の検査手数料も補助されるようになってますが、新年度予算で。農協の概算が、コシヒカリが１袋６，０００円。去年より６００円、仮渡しは上がりましたが、いずれにしても６，０００円、３０キロですけども、６，０００円。農水省が発表している生産原価、１袋３０キロ８，５００円というのになってます。いろいろと自民党の小泉農林部会長なんかは、資材をもっと下げろと。資材を下げたら何か経営が楽になるじゃないかみたいな話をしてますけども、確かにその面は一定ありますけども、費用を抑えるということは。それにしても、かつて人口が急速に減少した日南町だけではない、全国がこういう状態になっているわけだけども、やっぱりそこには政府がきちっと農林業を、農村を本当に再生していくんだと。再生でなしに創生という言葉をあえて使っておるのはなぜかということも含めて私は非常に、先ほど申し上げたように疑問に感じているわけですけども、やっぱり田舎で農林業をやって、きちっとした安定的な価格をやはり政府は責任を持って、やっぱり食料という大事な基幹産業を担っているわけです、国民の食料。それで、たまたま今回農協の価格単価に書いてありました。価格が今以上に高騰すれば、外米で昼食や外食産業はやるんだと。それもあり得るかもしれないというふうなことまで農協は通知書に書いてましたけども、今の状態は、国が本当に自分の国の食料は安心できる国内産でということもやっぱり政府自体から欠けているし、困ったときには、いざというときは輸入だということが系統の農協の中でも政府でもやっぱりありはしないかと。やっぱりこれでは農村は浮かばれないし、と思います。
　今度、増原町長は９月１１日に、日曜日に、ＴＰＰのことで中山間地農業の再生というふうな話だと思いますけども、大山町で講演もされると聞いてますけども、こういう農産物の低価格の状況で、本当に米農家でも大変深刻ではないかというふうに思いますが、私が言いたいのは、今度の地方創生の中で本当にこれだけやっている、頑張っている人には、やっぱり農産物の価格も安定させるための交付金もあってもいいじゃないかと。そういう使い方もあってもいいじゃないかということをやっぱり地方から提言していかないと、材価もです、本当に物すごく下がってますから、木の値段も。そういうことをやっぱり地方自治体の実態として国に対して申し上げて、意見を言っていくべきではないかというふうに思いますが、どうでしょうか。
〇議長（村上　正広君）増原町長。
〇町長（増原　　聡君）今、日本の中で販売農家というのは１２６万戸であります。１２６万戸というのは多いとは決して思いません。今、政府がいろんなところで、例えば海外に対していろんな支援をしております。それも確かに大事だというふうに思っておりますけども、一体１２６万戸の自分とこの農家が守れなくて、外国のところに支援をする必要があるのかと、極論の話ですけども。国際貢献は確かに必要でありますけども、国内貢献も必要だろうというふうに思っております。私は前から申しておりますように、ＴＰＰは反対であります。それをいみじくもアメリカの大統領候補の方が２人とも反対だと言っております。これは選挙目当てかどうか知りません。しかし、間違いなく彼らが反対してて、賛成に回ったときには、自国の農家に対してしっかりした保障をした上で海外と交渉をするはずです。ですから、ジェネリック農薬とか云々かんぬんというふうな話が今出ておりますけども、そういう問題ではないと。ＴＰＰを締結する前には、まず自国の１２６万の販売農家を守るという、そして食料自給率を上げていくということをしっかりやった上で、ＴＰＰに参加するなら参加するというふうな話でないと、同じだろうというふうに思っております。
　したがいまして、最終的には、今、久代議員がおっしゃいましたように、自国の農家を守るための施策をしっかりした上でその交渉に当たるという形をしないと、これまでのように工業製品と比べると、ＧＤＰの何％だとかという話をするような国では決してあってはいけないと。私は多分アメリカも同じことを思ってるというふうに思っておりますし、ＴＰＰに参加する１０数カ国も同じだというふうに思っておりますので、日本政府にもぜひそういうふうなことを求めたいと思っておりますし、今度のときでも、今度１１日に大山のほうで話をいたしますけども、農林業も含めて私どもは日本の農林業を守っていくという、小さな話でありますけど、日南町の中からでもそういうことだけはぜひともやりたいということをしっかり話をしてきたいというふうに思っております。そういう輪が広がっていけばいいなというふうに思っております。
〇議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
〇議員（10番　久代　安敏君）第三者評価委員会のことにちょっと戻っていきたいと思いますが、先ほど誤字ではないかと言いました日南町観光戦略スケルトンですね、これも資料として８月１８日に提出されていましたが、この考え方について私は思うのは、いわゆ

る観光で、ここにも書いてありますが、神社仏閣を中心にした物見遊山ばかりであると。自然の魅力を生かした取り組みができていなかった。いま一度地域を見詰め直し、日南町の関係者がそれぞれの得意の分野において、自然を舞台とした観光戦略を構築することで交流人口の拡大を目指すというふうに記述してあります。これについてどのように、第三者委員会を経て何か検討されたのかどうなのか、この点についてお聞きしたいと思います。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）久代議員の御質問にお答えいたします。
　今回御提示させていただいております観光戦略の案でございますけれども、もともと評価委員会を経てつくったとかそういったものではなく、もともと私の構想としてあったものということで、今年度このタイミングで出させていただいたということでございます。もともと今回、観光戦略という形になっておりますけども、これは私自身、観光をどっぷりやろうとかそういった意味合いではつくっておりません。今、移住定住ということで日南町に来ていただける方というのを、今からいろんな取り組みをしていく形になるんですけども、やっぱりその前提として、この日南町というものを知ってもらうことというのが一つ大事になってくるかなと思ってます。それは移住目的じゃなくても、まずは一旦日南町の魅力なり観光の資源、こういった蛍であったり、山、川、いろんなきれいな風景があると思うんですけれども、そういったものをまず見てもらって、この町のファンというか、好きになってもらう方をふやす。結局それも最終的に移住定住につながるんじゃないかなというふうに思っております。いろいろ今回案として書かせていただいておりますけども、あくまで日南町の魅力というものは何なのかということを考えたときに、私もここに来て１年たちましたが、やはりこの自然環境だと思っております。そういったものを生かして全国の方々に日南町を知ってもらう。これが最終的には移住定住にもつながるんではないかというふうに思っておりますので、このあたりは移住定住とセットいうような意味合いで進めていきたいと思っております。
　それと、資料にも補足でちょっと書かせていただいておりますけども、今回のこの観光戦略でございますけども、今、現に日南町の総合戦略で実施する事業の関連性ということでもある程度整理のほうをさせていただいております。例えば今、日南のブランド商品の開発であったりいろんな取り組みしてますけども、これについては、今、現時点では、道の駅の販売というような位置づけがメーンになっておりますけども、結局観光という形であれば、お土産であったりそういったものにも活用されるということになります。結果、やはり日南町の観光戦略を進めることによっていろんな人々に来てもらえれば道の駅の誘客も図れますし、それに応じてつくった商品の販路拡大にもつながるんではないかというふうに思っております。このような形で、いろいろ既存の総合戦略と関係性がございますので、そのあたりとセットでこの事業を進めてまいりたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）観光というと国も挙げて、観光で中国の爆買いとか海外からの人を受け入れる話が一般的ですけども、やっぱりその町の歴史や文化に触れると。もちろん川や山も自然、あるいは蛍の、この間全国集会もありましたけども。それともう一つ大事なのは、やっぱり文化芸術も当然必要だと。つまり、人々が出会って交流していく中には、単なる物販で爆買いしたとかこれがよく売れたとかいうことではないもので、本当のものがある意味で見出せるじゃないかなというふうに思ってるんです。これは教育委員会の関係もあるとは思いますが、やっぱりこれまであった、例えば一番最初につくられた井上靖の文学碑やその後の清張の文学碑、池田亀鑑もありますけども、それぞれゆかりのある文化芸術、それに伴ってやっぱりいろんなことが波及していくわけで、そういう交流がある町がやっぱり人々が、特に若い人が寄ってくると。単なるお金もうけの話だけではないことが、今度の総合戦略には欠けているじゃないかなというふうに、私、最初から思っていたんです。そういうことに政府は、地方創生本部は、内閣府はお金を出すのかどうなのか。例えばそれは松本清張まんじゅうとか井上靖もなかとかつくれば出してやるよという話なのかもしれませんが、私はやっぱりそういうところを一本通していかないといけないなというふうにも思いますが、ちょうどこの観光戦略スケルトンの案の物見遊山ばっかりであるということから感じているのですが、どうでしょうか。もう一度お聞きします。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）久代議員の御指摘の点でございますけども、やはりうち、松本清張であったり井上靖であったり、いろんな著名人の方のゆかりのある地という

ことで認知度も高いというふうに思ってますし、現にそれを目当てに来られてる方っていうのもいらっしゃいますので、それはそれで今やってるものの磨きをかけて、もっといい取り組みにしていくという形では必要かなというふうに思っております。
　今回、先ほども私申しましたけども、今までやはりそれに特化してきたもの、例えば福栄神社であったりとか、そういった方が今たくさんいらっしゃってるんですけども、やはり観光という部分でいうと、国民全体として趣味、趣向が変わってきてる。できれば、今特に多いのが、基本的に昔でいうときちんと旅程を組んで、このとおりにいろんなものを見て回るというものが主流でしたけれども、やはり今は現地に来て何ができるかっていうのを探して、そこでいろんなものを体験、体感をして楽しむということが一つの観光のブームというか、主流になっておるところでございます。やはり日南町、先ほど申しましたように自然豊かなところで、山、川、とっても魅力的なものがありますので、やはり訪れた方々に対して何らか幾つかのメニューが提示をできるというものが必要かなというふうに思っております。
　それと、最初の交付金の話もございましたけれども、今回、加速型交付金であったり新型交付金の推進交付金であったり、結構全国的に見るとやはり、先ほど久代議員もおっしゃいましたけども、インバウンドであったりＤＭＯの設立であったり、結構大がかりなものに対してお金を出すということになっておりますが、私自身、確かにそういった取り組みも必要だと思っておりますけども、まずはいろんな市町村とＤＭＯであったり連携をする前に、自分の町、日南町、この町自体の観光資源の磨き上げなりをやって初めてよそと連携ができるとか、そういったステップにつながるのではないかというふうに思っております。この点で見ると、まだまだ日南町、いい自然いっぱいあるんですけども、これを生かした取り組みっていうのが若干欠けているのかなというふうに思っております。個別で見ると、蛍の取り組みであったり、山上地区のほうで一生懸命やられてますけども、それが単発的であって、これが町内のいろんな飲食店であったり宿泊であったり、そのあたりとリンクして町内全体としてその事業を進めていくのかなど、いろいろ欠けてる点がいろいろあろうと思いますので、今回進めようとしてるのは、まずはそういった個々の取り組みを連携をしていって、ある程度町一体となっていろんな誘客促進を努めていく、これがメーンというふうになっております。以上です。
〇議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
〇議員（10番　久代　安敏君）冒頭の質問でも若干申し上げましたと思いますが、平成２８年、ことし４月６日に、内閣府地方創生推進事務局から地方創生推進交付金の取り扱いについてということでまた文書が出ていまして、実際に、今回この第三者委員会の中でも経産局の委員の方が資料を配られました。新しい取り組みがその中にあるわけだけども、やっぱりそういうふうにして、いろいろ政府、中央官庁もそういう取り組みを進めているわけですけども、これについて実際に広島の経産局で話を聞いたり、新たに補正予算でも組んで何か取り組もうということが実際にあるでしょうか。お聞きします。
〇議長（村上　正広君）山中専門監。
〇地方創生専門監（山中　慎一君）久代議員の御質問にお答えいたします。
　今年度創設された新型交付金、いわゆる地方創生推進交付金であったり、今から成立するであろう補正予算、これも地方創生のお金がいっぱいありますけども、現時点ではそのお金を使って何かやろうということは考えておりません。やはりお金云々の前に、まずどういった事業を進めていくのかという順番というものがあろうかと思います。基本的に、誰とやるのか、誰とどのようにやるのか、じゃあ結果としてどこにお金が要るのか、それが幾らなのか、そこで初めて交付金の申請ができるという形になっていると思いますので、その辺の準備ができないままお金だけ取りに行こうという形になると、結果的に無駄遣いという話にもなってしまいますので、そういった点を踏まえまして、現時点では推進交付金の申請などは考えておりません。
〇議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
〇議員（10番　久代　安敏君）実際に今答弁にあったように、今月９月３０日に、実施計画及び地域再生計画の提出期限だと。交付対象事業の決定、公表が１１月中旬。交付決定及び計画認定が１１月下旬ということで、実際には今年度の予算で、それは繰り越しされるかもしれませんが、つけ焼き刃的な、政府も国もいろいろ出して、小出しに、地方創生一つとっても出してきて、何かそれに振り回されてはいけないというふうにも私は思うんですよ。やっぱりきっちりと、先ほどもあった人口ビジョン、町長のおっしゃる創造的過疎をしっかり着実に前に進めていくと、これが第一であって、何かこの地方創生に振り回されないようにやっていけば、財源確保だけしていただければいいじゃないかというふ

うに私は感じてますが、どうでしょうか。
○議長（村上　正広君）山中専門監。
○地方創生専門監（山中　慎一君）国の職員という立場なので言いづらいところもあるんですけども、私自身、今回地方創生を進めるに当たって、これは３月議会でも私ちょっと話をさせていただいたかと思うんですけども、基本的に地方創生、地方創生って言いながら、やらないといけないことっていうのは町として今、欠けていることです。先ほど町長の答弁にもあったと思うんですけども、町としていろんな課題があったり、これまでやらないといけないものが置き去りにされてたりしたものっていうのが幾つかあろうかと思うんですけども、私自身というのはそういったものを一旦集約をして、じゃあそれらを解決するためにはどのような手法をとればいいのかというのを重点的にやるべきではないかなというふうに思いまして、今回の総合戦略も改定を行いましたけども、そういった主眼で改定のほうも行ったという経緯もございます。
　お金については、やはり使い勝手が悪いなというふうには思うんですけども、ただ、やはりそのような縛りを国がかけてきたというのは、やはりこれまで自治体にいろんな交付金があったんですけども、全ての事業がやりっ放しになっている。政府的には野党から国会などでこれは単なるばらまきでないかという指摘を受ける。じゃあそれの対応のためにきちんとした制度設計をし、ある程度ハードル上げたものにしかお金を出さないというような、いろんな関連性のものが今回の交付金に反映しているのではないかというふうに思っています。それについては私も同様の意見を持っておりまして、私も過去、国の職員として補助金行政にかかわった経緯もございますけども、やはりやりっ放しのところ、これがほぼ９割９分で、もうお金をかけてつけ焼き刃的にやって見直しもせずに放置されている、そういったものをたくさん見てきましたので、私はここで勤務をさせている間はそういったものは絶対やりたくないというふうに思ってますし、逆に今後お金費やすべきものというものがあれば、それにはとことん重点的にお金をつぎ込んで、それの結果なりをしっかりと見直しをして次の事業に反映をさせていく、そういった仕事の仕方を私はしたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）日南町に出向されて、山中専門監が国家公務員としてそういうふうな答弁をされたことは、ある意味心強いなというふうには感じています。
　先ほどの同僚議員の質問の中で関連質問もあって、計画の見直しについて議論がありました。私はまさに、とにかくずっと点検していくんだということが大切だと思うんです。情勢が変化すれば、やっぱりそこはきっちりと見直しもしていかなければならないし、そういう意味では、５年間の計画もやっぱり逐次変化していくというふうにしていかなければ、逆に硬直化してしまうと。何か目標があって、これ５年間で１年に５分の１だよなという、ああ、達成できるできるみたいな話になってしまえばまずいし、本当にいいことはどんどん積極的に計画も見直していくということこそ、まさに必要なビジョンだなというふうに考えていますが、改めてこの５年間の計画とあわせて、地方創生の戦略ビジョンが２４年先の人口の着地点がある以上、もう５年間では終わらない計画なわけですよ。ですから、総合戦略、地方創生の法律の中でやられている事業がどういうふうにさらに発展させていくかということもあわせて、非常に大事なことだというふうに思いますけども、どうでしょうか。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）私もそういう意見であります。見直すところは見直して、先ほどから申しますように、それが達成できたらより高みへやはり目指すという姿勢がない限りは日南町の未来はないというふうに思っております。
　それと、やはりお金の面についても、地方創生の初めのときには、頑張るところにはお金も出す、人も出すという話がありましたけども、だんだんそういう話も、暮れに石破大臣と話をしたときには、そういう話は確かにあったけどそういう状況じゃないと。お金は出さなくてもやらないといけないだろうと言われたんで、まさにそうですという話は確かにしたんですけども、確かにそうであります。
　それと、先ほど山中専門監言いましたように、国からお金が出ようと出まいと、幸いにも日南町はこれまでの議会の協力や先輩の職員の皆さんの協力によって、ある程度財政的にはいわゆる幅があるというふうに思っておりますので、本当に必要なものにはしっかり使って伸ばしていくと、加速させていくということをやっていきたいというふうに思っております。
　それと、ちょっと一つ観光という話をしますと、やはり日南町は農林業の町でありま

す。そして文学のふるさとでもありますけども、そういうふうなものを体験できる、体感できる、物見遊山ではなくて、見るだけではなくて、体感できるということをやはり一つ観光戦略としては打ち出していく必要があるというふうに思っておりますので、その辺も含めた地方創生というものを練り直しをしていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）第三者委員会で出された意見の中で、子供の学力低下が著しいと、ある委員の方がおっしゃってます。それはどういう学力低下の数値なのかということが私には一部理解できなかったわけです。それと、海外派遣を行って、いわゆるあれですよね、シアトルに行って、英語力を向上させることは重要だが、この発言でも海外派遣の１週間、２週間で英語力が上達するとは、私は向上するとは思っていませんが、重要であるが、基礎的な学力はそれとは別で向上させていくべきだという、この方はどうも子供のことの学習場面でも子供と接していられる方のようでしたが、そういう意見がありました。これは教育委員会としてはどのようにまとめられましたでしょうか。
○議長（村上　正広君）丸山教育長。
○教育長（丸山　　悟君）２点の質問だと思います、考え方だと思いますけども、学力低下が著しい、その基本というところが十分に私も理解ができないところがありますけども、なるほど、全国的に見たいろいろな調査とかいろいろなものを見れば、そんなにいい状態ではない、中のところまでいってないというようなところも出ております。ですので、どこを比較して著しく低下しておるというところは私にも理解ができないんですけども、やっぱり世の中いろんなところに出ていくのに、それ相応の能力を持って日本の中でやっていくというところは必要だと思いますので、その部分については一生懸命学力向上に努めていきたいというふうには考えております。その対策等については、その人が思っておられることと違うかもしれませんけども、基本的な学力の向上というところについては、この中で目標としてやっていきたいというふうに考えておりますし、その部分で海外派遣というところがありますけども、なるほど１週間ないし、海外に行ってすぐに学力が、英語力が上がるとは、それは私も思っておりませんけども、やはりきっかけだと思いますし、それまでの経過、行って自分の力を上げていくというところを思うならば、やっぱりこれは恒常的なところでありますので、その部分をやはり５年間というようなところ、それから、その以後のことも含めたところで上げていくというものについては、その方が言われたこととは共通するところ、それと私たちが思っていることと同じじゃないかなというふうに私は考えるところであります。よろしくお願いします。
○議長（村上　正広君）中村副町長。
○副町長（中村　英明君）その内容についてでありますが、もう１点は、いわゆる英検の関係のお話もされました。今うちが目標値としてる部分よりももう少しの上の段階の級を検討してみたらどうかというような御指摘っていいますか、御意見をいただきまして、実際、じゃあ全国レベル的にどういう状況にあるのかっていうことも、多少ちょっと別の雑誌の中で見た関係もありまして、国レベルでは、国平均では若干上のほうに実態があるなということを確認しましたので、関係課等、今後そういった英検あたりも子供さんたちが向かうような形が何かできないのかなというような話もしまして、例えばの話ですが、英検の資格あたりの多少の補助ができないのかなとかそういった話をしたところでありますので、これから内部で検討しながら、その方向性を見出していきたいなというふうに思っております。以上です。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）ちょっと素朴な質問ですけども、英検に向かう人をふやすといいますが、私たちが育った時代は英検なんてもちろんなかったわけですけども、あったかもしれませんけど、そういう試験を受けなかった。学校教育の中で英語力、英語の時間の学力がどうなのかということをされてました。英検に臨むということよりは、普通の一般教育課程の中でしっかり英語を学ばせるということで本当は足りるのではないかと、素朴に私は思いますけども、それはどの科目でも、数学でも理科でもそれぞれ学力があるわけですよ。それで、その点について、英語だけ極端に学力が低くて、総体的に、英検に臨まないといけないか。むしろそういうこと自体が学校の英語教育のカリキュラムの中で十分子供に理解されるような英語教育になってないじゃないだろうかというふうにも思いますけども、どうでしょうか。教育委員会のほうがいいと思いますけど。
○議長（村上　正広君）安達教育次長。
○教育次長（安達　才智君）今の英検に関してですが、学校の授業、当然大事ですし、学校でのテストもありますが、その意欲を高めるためにやっぱり英検にチャレンジするとい

うこともあります。いわゆる両輪だというふうに考えて、英検を頑張ることが学校の授業もよくわかるようになる。学校の授業で頑張るから英検もチャレンジしようと思えるということになると思います。
　シアトルの件についても、英語に対する意欲を高めるという面では非常に効果があっていると。これはデータとしてもあらわれているということです。以上です。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）直接地方創生とはどうなのかなと思いながら質問をしてますが、それにしても目標数値が、３０数項目の中に英語力と小・中学生の海外派遣のことも出ていますし検証されていますので、あえて聞きました。例えばシアトルに海外派遣されることについて、私もその案が出たときに、いわゆる反対の立場で意見を申し上げました。本当に小・中学校の義務教育課程の中で、やっぱり本当にどの子も伸びる、どの子も成長できることがまずは第一義ではないかと。経済的な理由もいろいろあったりして、家庭的な状況もあって、参加したくても参加できないとか、そういうことがあってはならないためにあるのが就学援助の制度でもあるわけです。ですから、本当に子供たちにいろんな国際的な交流もさせていくということでは、やっぱり確かに希望者が多いという話もありましたけども、何か私は教育の機会均等の原則から考えれば、ちょっと違うじゃないかなというふうに思いますけども、どうでしょうか。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）私のほうから、これは政策的な部分でありますので、答えたいというふうに思っております。
　私は、英検なり、そして英語教育、そしてシアトルへの研修というのは、ある意味では一つの日南町の子育ての目玉だというふうに思っております。御承知のとおり、今本当に首都圏のほうではアメリカンスクールに通わせていかれたり、そして英語しか使わない学校というのが、小学校とか、保育園から、そういうふうなものがどんどんできております。そういうわけにはなかなかまいらないというふうには思っております。しかし、日南町でいけば、やはり英語力が伸びるんだ、かつてエスペラント語という世界統一言語をつくろうというふうな運動もございましたけど、実際には今英語が世界共通語になってるわけでして、これからの子供たちというのはやはりどうしても英語力というのが必要だと。その中で、単なる読み書きだけではなくて、英検というしゃべれたり聞いたりするという能力を高めるということが非常に求められている。当然、御承知のとおり、高校にもヒアリングというのが入ってきたりして、どんどんどんどん英語の重みが出てきております。小学生からもう既に英語を学ぶということが義務教育の中で出てきておるわけでありますので、そういう中での日南町の一つの子育ての支援の特徴として、英語に対しての学力を向上させるということは一つだと思っております。
　それと、当然いわゆる教育の機会均等というのはあるわけですけども、当然教育の中でも競争はあるわけです。誰もがオール５をもらうわけではありません。当然差がつきます。それから、例えば誰もが東大なりに行けるわけでもありません。当然試験があるわけで、どこかではやはり試験というのが必ずあるわけですので、選抜があるだろうと。その選抜というのは、一つの中がやはりシアトルの、仮に行く方が、非常に希望者が多いのならば、そこでのやはり選抜はあるだろうというふうに思っております。ただ、その中で、私は大事なことを教育委員会にも言ってるんですけども、早く決めなさいと。行く２週間や一月前に選抜するんじゃなくて、もう今の時期に決めて、その方たちには一生懸命英語の勉強をしてもらう。そして目標を持って、シアトルに行ったけども、スペースタワーがありましたとか、野球場にガムの２万個だかいっぱい張ったガムが張ってありましたとかそういうことではなくて、自分はアメリカのシアトルに行ったときにはこういうことを学んできて、今度発表しますということをちゃんとつくりなさいと。そして、次に行きたい人たちももう既にそのときに一緒に勉強して、来年は次に自分が行くんだと、そういうふうな気持ちを持って、もし例えば家庭的に厳しいところがあれば、例えばそれはある程度公費で賄うにしても、小遣いぐらいはちょっと、例えば１年間あったら少しずつためておこうとか、そういうふうなことがあって行ってもらうというのが、私は非常に教育的見地、英語だけではなくて、人生の中でも非常に大きな糧になるというふうに思っておりますので、そういう見地で考えておりますので、御理解いただきたいと思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）検討委員会の、日南病院医療従事者の問題、それから福祉関係の従事者、もうこれは、この中では意見としては余り出されていませんでしたけども、一応それぞれの課長が報告されてます。これについて、これも５年間の目標値ではな

いというふうに私は思ってます。今すぐにでも、５年間待てないよという話なんですよ、実際には。ですから、これについては総合戦略の中でこういうやり方がどうなのかなということも含めて、確かに総合戦略の中には書いてありますけども、この考え方ですね。福祉保健課長も福祉、介護の関係のスタッフの問題、これには５年間で１０人だと。それで、いうことで、５年間で４０人雇用ということで、年間１０人ということで書いてありますけども、この点については、内部でのその検討はどうだったのかということをお聞かせください。
○議長（村上　正広君）梅林福祉保健課長。
○福祉保健課長（梅林　千恵君）介護人材確保についてでございますが、総合戦略の中にも目標値を上げて、取り組み状況を振り返っていくということにしてございます。また、御指摘がありましたように、この問題は喫緊の課題でありまして、総合戦略のみでなく、日ごろの介護保険サービスを必要な方に滞りなく提供するためにとても急ぐ課題であると考えております。関係担当課と、それから関係機関との協議もしておりまして、人材確保につきましては、特にここには奨学金制度について掲示をしておりますけれども、そういった周知をそれぞれの機関であらゆる機会にＰＲしていくということに取り組んでおります。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）この数値というのは、実際採用というのもありますけども、実はもう一つには退職ということもありますので、その辺を加味しないと実際の数値は出てこないというふうに思っております。その辺をしっかり調整をしながら考えていかないと、ただ単に１０人雇ったけども、例えば退職で２０人退職されれば意味がないわけですので、その辺のプラス・マイナスを図っていきたいというふうに思っております。ただ、ある意味でいいますと、例えば具体的に言いますと、福祉会でいいますと、来年度は新卒者の採用が３名あるというふうに聞いております。そして、病院でいいますと、今のところ、確定ではありませんけども、看護師は１人が新卒、それから、薬剤師もある程度確保できるように聞いておりますので、そのように連携をとりながら、情報をとりながら進めていきたいというふうに思っております。この数値について、余りここの数値にかかわりますと、結果的には４０人採用したけど４０人やめちゃったという話をするともうプラマイ・ゼロになってしまいますので、この数字だけにこだわらずに、中の実数というものを把握しながら調整をしていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）中曽病院事業管理者。
○病院事業管理者（中曽　森政君）総合戦略の関係、５カ年計画というような形式をとっておりますけど、現実には、具体的にはいろいろなタイミングの課題がありますので、急ぐべきものはしっかり急ぐということで、内部的には人的な配置を具体的に検討しながら向かっていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）町長からも答弁がありましたように、特に地方創生の総合戦略以前の問題として、介護保険制度を利用者が、例えば待機者になるとか、施設を閉鎖しているとかという、当面求められている人材もうまく確保できていないという喫緊の課題があるわけです。これは総合戦略でも何でもない、関係のない話で、本当に町の事業がきっちり運営できないということがやっぱり大問題であって、そこは例えば５年という期間を設けた戦略でなしに、やっぱり今本当、介護保険事業を行うために必要な人材をきっちり確保していくという取り組みこそ求められているのであって、こういう点はもっと急いで取り組むべきではないかと思いますし、病院についても、先ほど常任委員会でいろいろ病院のアンケートも聞き取りをいたしました。その中で、総合戦略の中にもありますが、やっぱり小児科の常勤医の問題、それから、整形が何としても、週１日で非常に１日の日に待ち時間が長くなるという話も聞きました。
　そういうことをまずきっちり、町長のおっしゃる本当に安心安全に暮らせる町、そのためにも地方創生とはもう切り離して、やっぱり当面取り組むべき政策があるじゃないかというふうに思いますし、やっぱりそのためにこそ、今、病院関係にも地方交付税で措置されていますが、やっぱり本当に事業を、安心安全な暮らしをしていくための事業をやるための交付税こそきっちり確保されるべきであるし、そういう点では、第三者委員会での意見を聞いていて、本当に喫緊の話のとこに対して、一生懸命取り組まれてはいるでしょうけども、やっぱりもう少し積極的な姿勢が必要じゃないかなというふうに、全体として感じた部分があります。その点は決算の審査の中でもいろいろ意見も出てくると思いますけども、私は介護・医療の関係は、特に日南町の若年層の若い人を、労働力を確保して、そ

れだけで町が元気になっていくわけです。そういうことこそ必要じゃないかということを申し上げて、私の質問を終わります。以上です。
○議長（村上　正広君）今の答えはいいですか。
○議員（10番　久代　安敏君）ほんなら答弁をお願いします。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）おっしゃるとおりで、先ほど申しましたように、日ごろの日常の仕事が結果的には地方創生につながるわけであります。先ほどの医療の人員確保、そして福祉の人員確保にしても、日ごろからやっていないと、地方創生のためではないわけであります。やはり福祉会も鳥取のほうまで行かれたり、いろんなとこに行かれて、ずっと就職説明会もされておりますし、米子市でも先般されております。全く来ないときもあれば、新卒者が何人か来ていただいて、結果的にはつながっているというふうには思っておりますので、そういう日ごろの努力を一緒にやりながら、こちらも情報発信をしながら、ぜひともそういうことを地方創生以前の問題としてやっていきたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）１０番、久代安敏議員。
○議員（10番　久代　安敏君）ありがとうございます。２０４０年に消滅するなんてことは、私はあり得ないというふうに確信してます。執行部と議会と住民と一緒になって、やっぱり乗り越えられる問題だと思うし、やはり我々が少しでも安心安全で住み続けられるならば、必ずや文字どおり日南町は再生していくというふうに確信していますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。（「答弁は」と呼ぶ者あり）なし。
○議長（村上　正広君）関連質問がありますか。
　８番、近藤仁志議員。
○議員（８番　近藤　仁志君）済みません。このたびの評価委員会の結果について、自分なりに今まで考えとったこととあわせてちょっと質問させていただきますけど、自分も道の駅ができる前の一般質問において、このたびブランドの商品開発に取り組まれたり、それからまた、農産物、生産農家をふやして生産物をふやす、新規の農産物の開発等を心がけるという説明の中で、道の駅ができる前から既に販路の開拓というのはもうやっておかないけんではないかという提案したら、それは考えていますという答弁であったわけですけど、このたびのこの検証結果を見ますと、新たな販路の拡大を考えていかなければいけないというような文言で締めくくってあるわけですけど、１２月の一般質問ではなかったかと思いますけど、そういうことがまたこういうことで取り上げられる、また１年おくれてこれに対応するというようなことが、前、同僚議員がおっしゃいましたけど、そのスピード感というのが欠如しているではないかということです。
　それとあわせまして、観光戦略スケルトンという案というの、こういうの大変有意義なことでありまして、何かやはり点検というのが、チェックですね、そういうのが重要視されますけど、その点検をするには行動というのがないとやはり点検には至らないわけでありまして、やはり思ったこと、考えたこと、いいではないかと思うことをとりあえず行動していくという考え方が必要ではないか。
　あわせまして、空き家バンクの登録数が、このたびのＫＰＩ、目標値として上げられておりますけど、これの利用促進、利用推進の道筋、また利用率の向上、そういった面はＫＰＩに上げる必要はないだろうかという懸念を持っておりますけど、どうでしょうか。
○議長（村上　正広君）増原町長。
○町長（増原　　聡君）確かに販路拡大という面では少しおくれているというふうに思っております。具体的に、議員も各議員もたしか東京のももてなしに行かれたというふうに思っておりますけど、そこでも日南町のお褒めがなかったという話も承っております。そういうふうなところでも、正直なところ、エナジーから売り先を道の駅に変えた関係があって、その辺がうまく連携できてなかったというのは確かに、言いわけとしてはありますけども、実際としてはその辺が進んでないということは否めない事実だというふうに思っておりますので、その辺はスピードアップをしながら進めていきたいというふうに思っております。
　それと、例えば今回も米子の高島屋あたりで、たしか日野町の海藻米が販売されるというふうに聞いておりますけども、そういうふうなことも含めて、日南町もある程度、もう実際には米子市のほうはほとんど日南町の米が席巻してるわけですけども、日南町の米同士で取り合いをしないような、すみ分けをしっかりした販路の拡大というのを図っていきたいというふうに思っております。
　それと、観光というふうな話の中でのお話は、また後にさせていただいて、説明をした

いというふうに思っておりますので、販路拡大についてはそういうふうな事実があり、これからもっとスピードアップする必要があるというふうに認識をしております。
○議長（村上　正広君）空き家バンク。
○町長（増原　　聡君）済みません。それと空き家バンクでありますけども、実はきょうのホームページか何かに、空き家のツアーの案内をしておるというふうに思っております。結局、今、空き家バンクの中で一つ問題なのが、改修が必要な空き家というのがなかなか利用が進まないというふうなことがあっております。それを逆に言いますと、例えば改修しながら住むとか、直すことが好きだというふうな人たちにも例えばツアーをしていただいて、向上を進めるというふうなこともあってもいいじゃないかと。一つには体験的な空き家ツアーというふうなことも検討していきたいというふうに思っております。これらについても、やはり住民課や企画課等とも連携をしながらやっていかないといけないことになりますので、それらも含めて、活用の方法を今考えているところであります。相当今、実際には内々ではありますけども、いろんなところで空き家に入りたいという方がふえてきておりますので、地域と相談をしながら、地域の中になじんでいただくようにＩターンを進めたいというふうに思っております。
○議長（村上　正広君）以上で久代安敏議員の一般質問を終わります。

○議長（村上　正広君）以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。
　本日はこれをもって会議を閉じ、散会にしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（村上　正広君）御異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定をいたしました。
　つきましては、あす９月８日の本会議は別に通知をいたしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いをいたします。
　本日はこれにて散会いたします。御苦労さんでした。
午前１１時５５分散会